

神戸ビエンナーレ2015 検証報告書

2016年4月

神戸ビエンナーレ2015 企画委員会

目 次

I	開催結果	1
II	基本方針～アートを活かしたまちづくり（文化創生都市の実現）～の検証	3
III	実施事業の検証	
1.	～市民とともにつくりあげる～ 交流・発信部門	5
2.	～新進のアーティストを発掘・育成する～ コンペティション部門	7
3.	～神戸の芸術文化の力を発信する～ 神戸力発信部門	12
4.	連携事業・協賛事業	20
IV	管理・運営事項の検証	
1.	組織体制	21
2.	広報・宣伝	21
3.	会場の設営と運営	24
4.	事業収入の確保	27
V	総括	27
VI	企画委員名簿	29

I 開催結果

～港で出合う芸術祭～ 神戸ビエンナーレ2015の開催結果は下記のとおりである。

(1) 名 称

～港で出合う芸術祭～ 神戸ビエンナーレ2015

(2) 基本方針 ～アートを活かしたまちづくり（文化創生都市の実現）～

神戸ビエンナーレ2015では、震災20年を乗り越えてきた神戸の文化の力を結集させ、このまちが育んできた進取の気風によって、アートの既成概念を打ち破ることを目指します。私たちは、新たなステップへとアートの世界を飛躍させることで、日本の文化の驚くべき包容力と海外に開かれた多様性を明らかにし、みなとまち神戸から広く国内外に未来に発信しようとしています。

また、このまちに誇りと愛着を有する市民ひとりひとりの意志と行動によってこそ「芸術文化の薫りあふれるまち」が作りあげられることを、この祭典をとおして実証し、感動と喜びに満ちた文化創生都市を目指していきます。

(3) 会 期

2015年9月19日（土）～11月23日（月・祝）

※東遊園地会場…9月19日（土）～11月1日（日）

(4) 会 場

○メリケンパーク・ハーバーランド・元町高架下エリア

○東遊園地・フラワーロードエリア

○ミュージアムロードエリア（兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館）
他

(5) 開場時間

○メリケンパーク 11:00～16:00 ※土日祝 ～17:00

○ハーバーランド 設置場所の施設に準じる

○元町高架下 12:00～18:00

○東遊園地 日 没～21:00 ※夜間展示のみ

○兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館

10:00～18:00 月・祝翌休 ※横尾忠則現代美術館 金土 ～20:00

(6) 入場チケット

(前売) ○全会場セット券 1,700円

(当日) ○全会場セット券 2,400円

○メリケンパーク・東遊園地セット券 1,000円

○メリケンパーク 800円 東遊園地 500円 兵庫県立美術館 1,000円

横尾忠則現代美術館 700円 BBプラザ美術館 400円

(7) テーマ

スキ。[su:ki]

神戸が、スキ。

新しいもの、優れたもの、愛らしいものに私たちは心惹かれます。好奇心は気持ちを弾ませ、さまざまな芸術文化を花咲かせます。好みは人それぞれの趣向(おもむき)ですが、この直感には素直なところが現れています。そして、日本人は、この「好き」の語感も好み、日常に親しんできました。紙

を漉(す)き、土地を鋤(す)き、髪を梳(す)き、隔てを透(す)く…。櫛(くし)や鍬(すき)や柵(さく)などで、乱れたものを整えたり、余分なものを省いたり、空(す)かせて通りを良くするのです。

この生気を吹き込む軽(かろ)みと洒脱(しゃだつ)さは、多くの数寄者(すきしゃ)を生み、自身の感性を見極めるとともに、相手の好みを慮(おもんば)かり、時にはスキを与える美德さえも”もてなし文化”として育んできたのです。さまざまな価値や表現が「さく」今日、お洒落(しゃれ)な都・神戸で、心おきなく大切な「スキ。」と出会い遊びましょう。

(8) 来場者数

383,339人

	(2015)	(2013)	(2011)
・総来場者数	383,339人	369,455人	242,766人
【主な会場別来場者数】			
・メリケンパーク	116,326	132,959	81,628 *1
・ハーバーランド (グリーンアート展)	82,847	90,268 *2	54,019
・元町高架下	30,341	50,741	55,240
・東遊園地	33,780		
・ミュージアムロードエリア (兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館)	41,459	28,545	16,106 *3

*1：神戸ハーバーランド・ファミリオ、ポーアイしおさい公園

*2：中突堤中央ターミナル (かもめりあ) *3：兵庫県立美術館のみ

(9) 主 催

神戸ビエンナーレ組織委員会、神戸市

(10) 共 催

兵庫県

(11) 後 援

兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会／朝日新聞社／朝日放送／NHK神戸放送局／MBS／関西テレビ放送／K i s s FM KOBE／神戸新聞社／産経新聞社／サンテレビジョン／日本経済新聞社／毎日新聞社／読売新聞神戸総局／読売テレビ／ラジオ関西 (五十音順)

(12) 助 成

文化庁 99百万円

(13) 総事業費 (見込)

292百万円	財源内訳	神戸市補助金	250百万円 ※
		チケット収入	26百万円
		コンペ収入	6百万円
		その他	10百万円
		※補助金の原資に寄付金(38.3百万円)を含む	

以下、事業終了後、事業の成果を検証する事務を担う企画委員会（神戸ビエンナーレ組織委員会規約第10条第1項第2号*）は、「神戸ビエンナーレ2015 事業計画」に基づいて実施した事業について、項目ごとに、来場者アンケートや出展作家アンケート、審査員の意見を基にその成果の検証を行う。

*神戸ビエンナーレ組織委員会規約

第10条 企画委員会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 略
- (2) 事業終了後、事業の成果を検証する。

*企画委員名簿は末頁参照

II 基本方針～アートを活かしたまちづくり（文化創生都市の実現）～の検証

神戸ビエンナーレは、2004年の「文化創生都市宣言」を受け、神戸の芸術文化の更なる振興を図るとともに、まちの賑わいと活性化につなげることを目的とし、「まちづくり」とそれを担う「人づくり」を目標に、2007年から2年に1度開催してきた。

アートを活かしたまちづくりという基本方針のもと、国際貿易港として国内外から多様な文化を受け入れてきた神戸らしい取り組みとして、「ビエンナーレ＝選別された作家による最先端の現代アートの展示」との考え方のもとに国内外で開催されている他の芸術祭とは一線を画し、当初よりその独自性を発揮してきた。

これまでは、4～5つの基本理念を設定してきたが、神戸ビエンナーレ2015では、以下のように1つにまとめて、コンセプトを明確にした。

神戸ビエンナーレ2015では、震災20年を乗り越えてきた神戸の文化の力を結集させ、このまちが育んできた進取の気風によって、アートの既成概念を打ち破ることを目指します。私たちは、新たなステップへとアートの世界を飛躍させることで、日本の文化の驚くべき包容力と海外に開かれた多様性を明らかにし、みなとまち神戸から広く国内外に未来に発信しようとしています。

また、このまちに誇りと愛着を有する市民ひとりひとりの意志と行動によってこそ「芸術文化の薫りあふれるまち」がづくりあげられることを、この祭典をとおして実証し、感動と喜びに満ちた文化創生都市を目指していきます。

(1) 多ジャンルにわたる企画展示

他都市の芸術祭が、現代アートを中心とした展示を行っているのに対して、神戸ビエンナーレでは、「コンペティション部門」と神戸の芸術文化の力を発揮する「神戸力発信部門」に分け、ジャンルを現代アートに限らず、コミックやアニメ、ゲームといったサブカルチャー、神戸ビエンナーレオリジナルの取り組みであるアートインコンテナや生きた根付の植物を使ったグリーンアート、いけばな、書、工芸などの伝統文化等から音楽まで、あらゆるジャンルを取り入れてきた。今回も20を超える企画展示を市内3つのエリアで開催したが、これほど多くの取り組みを行う芸術祭は他には見られない。来場者からも「一般的なアート以外にも書やいけばながあるのがいい」「幅広いアート作品の展示により、それまで関心のなかった分野に対して興味を持つよいきっかけとなった」「さらに規模を拡げてさまざまなアーティストの作品を見せてほしい」といった声が聞かれた。

その一方で、展示作品に関しては「エンタメ作品ばかりで、現代アートの要素が少なすぎる」「もう少し統一感があってもいいのではないか」といった声もあった。

(2) コンペティションの実施

神戸ビエンナーレは、招待作家中心ではなく、新進アーティストの発掘・育成を目的としたさまざまなコンペティションを中心に据えているのも大きな特徴である。コンペティションに応募資格はなく、プロアマ、専門分野は問わず、開かれたものとなっている。今回は7つの分野でコンペティションを実施した結果、海外を含め、計681作品の応募があり、116作品が入賞・入選となった。また、若手アーティストの発表の機会ということでは、前回に引き続いて『大学作品展』を実施し、近畿圏を中心に12大学15ゼミが参加した。「海外の作家、学生や市民の作品もあり、プロだけでなく一般市民の作品も展示されていることもよいところであると思う」「多くの人々が参加していることから、各々の価値観を共有する貴重な機会になっている」といった来場者の感想は、こういった取り組みを受けたものである。また、プロアマを問わないコンペティション方式については、これまでも「作品のクオリティが低い」「作品の耐久性に問題がある」との意見があったが、5回目を迎えた今回は、神戸ビエンナーレでの発掘・育成の成果として、現在活躍中の過去の入賞作家を招待したことで、一定の改善がみられた。

(3) 多くの会場と多様な展示方法

神戸ビエンナーレでは、メイン会場の他にも多くの無料会場を設けている。今回もメリケンパーク会場、東遊園地会場、ミュージアムロードの3美術館だけでなく、ハーバーランドumie、中突堤中央ターミナル(かもめりあ)、元町高架下、市役所市民ギャラリーなど、多くの無料会場を設定したことにより、市民をはじめ多くの人々が身近にアートに触れるきっかけとなった。展示方法については、前回までは、主に海上コンテナを利用した展示を行ってきたが、今回は大きく転換した。初めての取り組みとして、東遊園地での夜間みの展示、メリケンパークでの大型テントの活用、高架下でのいけばな展など、自由かつ柔軟な発想で作品展示を行った。一方で、今回も展示会場の分散化について、「会場が分かりにくい」との意見が来場者からだけでなく出展作家からも聞かれた。「会場間の距離が中途半端に遠い」との指摘もあったが、今回はシャトルバスを運行しなかったこと、会場間のアクセスについてはモデルコースも作ったものの、わかりやすく情報発信できていないとの指摘もあり、来場者サービスという点で課題が残った。

(4) 他の芸術祭との交流・連携

海外については、これまでも、韓国の光州ビエンナーレや友好都市である中国・天津市とビエンナーレをきっかけとした交流を行ってきたが、今回は、兵庫県下の他の芸術祭との連携により、プレイベントを含めて、各芸術祭ゆかりのアーティストの作品展示や情報発信を行った。近隣の芸術祭との間で、広報PR等での一般的な連携だけではなく、作品出展も含めた交流・連携を行ったことも神戸ビエンナーレの拡がりや寛容性を示す取り組みとなった。

神戸ビエンナーレ2015では、基本方針を受けて、上記のような既成概念に囚われないさまざまな取り組みを行ったが、その結果、来場者からは、

「場所が開かれ、展示の機会も広く開かれており、訪れる人にとってもアートをより身近に感じるきっかけとなるように思う」

「一般的な展覧会では、これほど人とアートとの距離感を縮めることはできないだろう」

「多くのジャンルや多様な展示形態、国内外の作家の作品など、神戸という地域が持っている多様性や懐の深さを感じることができた」

などの意見が聞かれた。

また、2014年10月26日に東京都美術館で開催したイベントにおいて、神戸ビエンナーレも加盟（2014年～）する国際ビエンナーレ協会（International Biennial Association）会長のYong-Woo Lee氏は、神戸ビエンナーレを次のように評した。

「神戸の震災後の文化創生都市づくりと非常にマッチングしており、世界のあらゆるビエンナーレの中でも、これほど作品と市民との距離が近い芸術祭は他にない」

「良し悪しを語る芸術から離れて、市民に優しいビエンナーレを作っている神戸ビエンナーレが、現代美術に執着的な世界の大半のビエンナーレに対し、相当な影響を与える可能性があるとは私は考えています」

まさに、他のビエンナーレ・トリエンナーレなどの芸術祭を範としない神戸ビエンナーレの特徴を端的に表したものである。

これらのことから、神戸ビエンナーレ2015では、神戸の芸術文化の多彩性、多様な価値の受容性を多くの来場者が感じ、基本方針の内容を実現することに、より近づくことができたものと思われる。

Ⅲ 実施事業の検証

1. ～市民とともにつくりあげる～ 交流・発信部門

神戸ビエンナーレ2015では、神戸のまちに誇りと愛着を有する市民の力を結集し、市民自らの行動によりまちなかに広くビエンナーレを浸透させることで、市民参加型の新しいビエンナーレをつくりあげていくことをめざした。

（1）「神戸ビエンナーレ Cheers（チアーズ）」の活動

市民が主体となって、それぞれの知識・経験を活かして、ともに神戸ビエンナーレをつくりあげ、盛りあげていく組織「神戸ビエンナーレ Cheers」を創設した。3つのグループ（広報・作家交流・おもてなし）に分かれて話し合いを重ね、さまざまな事業や取組を行った。

【広報グループ】

- 広報展開（飲食店等へのポスター掲示依頼、Facebook・Instagramの活用）
- タイアップ商品・メニューの展開（23商品・メニュー） ○イベントでのPR活動（18イベント）
- 会期中の広報PR（フォトスポット） ○Cheersがお勧め！モデルコース（5コース提案）
- その他（まちなかキャラバン、Cheers募集CM動画作成、地域会合でのビエンナーレ紹介）

【作家交流グループ】

- 制作補助体験レポート・質問リストの作成・取りまとめ（ガイドツアーに活用）
- 作品紹介カード作成（コンペ入賞17作品分） ○出展作家によるアーティストトークイベント

【おもてなしグループ】

- ダンスフラッシュモブ（約20名でダンス、会場内外で13回実施） ○顔出しパネルの作成
- 展示作品ガイドツアー（金土日祝の35日（97回））
- アート de デート（東遊園地でのイベント5回）
- Cheers ワークショップ（エコ工作、バルーンアート、缶バッチづくり等27回）

(実績)

- ・活動期間 2014年12月14日～2015年11月23日
 - ・登録数 150名 (197名※) ※2013「神戸ART サポーターズ」
 - ・活動実人数 108名 (56名※) 同上
 - ・活動のべ人数 1,710名 (645名※) 同上
- 内訳： ミーティング等 (18回) 473名 グループミーティング (25回) 223名
PR イベント (18回) 176名 作品制作補助 (23日) 147名
会期中おもてなし (63日) 537名 ダンス練習 (10回) 135名
新長田アートプロジェクト (プレイベント) 19名

(2) 「神戸ビエンナーレ学校」の開催

神戸ビエンナーレ Cheers や市民を対象に、学んだ知識を活かし、神戸ビエンナーレをつくりあげていくことをめざして、ビエンナーレに関わるアーティストをはじめ多彩な講師による、ビエンナーレや芸術文化、神戸に関する多様な講座を開催した。

(実績)

- ・期間 2014年10月14日～2015年8月7日
- ・開催数 21回 (講師20名)
- ・参加人数 729名

(3) 「神戸ビエンナーレフレンズ」による発信

ロコミや SNS 等での情報発信を通じて、主催者等が提供する神戸ビエンナーレに関する情報が市民の間に広く共有され、浸透していくきっかけづくりとして、「神戸ビエンナーレフレンズ」を創設し、登録者を募った。

(実績)

- ・登録人数 512名

(4) 交流の場の提供

ワークショップなど、アーティストと市民の皆さんの交流の場を積極的に設け、アートへの理解・関心を高めるとともに、作品を制作することの楽しさを実感してもらう機会を創出した。

(実績)

- ・ワークショップ実施回数 合計 19回
- (内訳) 出展作家：11回 龍野アートプロジェクト：2回 あさご芸術の森美術館：6回

(検証)

これまでのボランティア組織を見直し、新たに立ち上げた「神戸ビエンナーレ Cheers」は、今回のビエンナーレに欠かせない存在となり、大きな成果を収めた。当初こそ参加者がなかなか増えなかったが、神戸ビエンナーレ学校や、メンバーの活動や口コミを通じて徐々に増え、活動も活発になった。成功の最大の要因は、メンバーの自主的な発案でさまざまな取り組みが行われたことにある。いわゆるボランティア組織のように、事務局からの依頼により動くのではなく、メンバーはミーティングを重ねて意見を出し合い、自主的に広報PR、作家との交流を通じた作家・作品情報の発信、会期中の事業などさまざまな取り組みを実現した。幅広い年齢層のメンバーがチームワークよく活動することができ、アンケートでも「ボランティアの枠を超えた活動だった」「参加してよかった」との意見があった。

広報PRでのタイアップメニューやタイアップ商品は、これまで事務局ではできなかったユニークな取り組みであった。作品制作補助や作家インタビューなどの作家交流により、出展作家アンケートでも Cheers への感謝の声が多かった。ガイドツアーやワークショップをはじめとしたおもてなしは、来場者からの評価も高かった。

芸術祭における市民パートナーとしての役割だけでなく、市の文化行政をとともに考え、実施していくパートナーとしても継続した取り組みが期待される。

また、神戸ビエンナーレ学校については、21回の開催の重ね、神戸ビエンナーレ、芸術文化に限らず、神戸の歴史やまちづくりなど幅広い分野について、広く市民に興味を持って学んでいただくよい機会となった。

ワークショップは来場者からも好評で、アーティスト、来場者、Cheersのよい交流の場となったが、来場者がたまたま参加するのではなく、事前に広く広報PRを行うことにより、ワークショップを目的に来場してもらい、結果として会場の集客につなげる工夫が必要である。

2. ～新進のアーティストを発掘・育成する～ コンペティション部門

(1) アートインコンテナ国際展【東遊園地】

神戸港と関わりの深い輸送用コンテナ(L:約12m×W:約2.4m×H:約2.7m)の特性を生かした平面・立体・映像・インスタレーション、さらには伝統芸術やインタラクティブ・アートなど、自由な発想と方法でアートの力と可能性を表現した作品を公募し、入賞作品を展示した。今回は東遊園地会場での夜間のみでの展示とした。

- | | | |
|-------------|------------------------------|--|
| ■応募状況 | (2015) | (2013) |
| ・応募総数 | 114 作品 (113 組) | 138 作品 (134 組) |
| ・海外からの応募 | 22 作品 (12 か国) | 23 作品 (13 か国) |
| | 7: ドイツ 3: アメリカ 2: イスラエル、スペイン | 1: エクアドル、フィンランド、ルーマニア、チェコ、ポーランド、インドネシア、シンガポール、香港 |
| ■授賞 | | |
| ・神戸ビエンナーレ大賞 | : 1 作品 | 準大賞: 1 作品 審査員特別賞: 1 作品 奨励賞: 2 作品 |
| 入賞 | : 10 作品 | |
| ■展示作品数 | | ■展示場所 |
| ・15 作品 | | ・東遊園地 (有料エリア内) |

(検証)

今回初めて東遊園地での夜間展示を行ったが、来場者からの評価は総じて非常に高かった。夜の展示となり、一定の暗さを必要とする作品でもコンテナ内外を暗幕等で仕切る必要がなく、さまざまな展示方法を取ることができた。夜の公園の独特の雰囲気の中で、鑑賞環境についても改善され、ゆっくり時間をかけて作品を鑑賞していただくことができた。展示作品数は前回の25から15作品に減ったが、個々の作品をじっくり鑑賞していただくことができたと思われる。また、審査講評でもあったように、視覚、聴覚だけでなく、触覚的な作品もあるなど、さまざまなジャンルの、より厳選されたレベルの高い作品が出展されたことも好評を博した要因であると考えられる。

会場の都合により、十分な展示スペースを取ることができなかったことや、会期が他会場よりも短かったこと、夜間展示となり子どもが来場しにくくなったことその他、これまでも聞かれた、コンテナではなくもっと広い空間を活用した展示を求める来場者からの声もあったが、東遊園地での夜間展示という新たな試み自体は大きな成果をあげることができたと考えられる。

(2) しつらいアート国際展【メリケンパーク】

“しつらい”とは、祭礼時などに場を設えたり、もてなしのために飾り付けたりする日本の伝統的な空間手法。神戸のまちと海を背景に、場所性と仮設性を最大限に生かした空間創造を提案する作品を公募し、入賞作品をメリケンパーク他で展示した。

- | | | |
|-------------------|---------------------------------------|------------------------|
| ■応募状況 | (2015) | (2013) |
| ・応募総数 | 40 作品 (39 組) | 60 作品 (60 組) |
| ・海外からの応募 | 8 作品 (7 か国) | 8 作品 (8 か国) |
| 2: イスラエル | 1: チェコ、ドイツ、オランダ、ルーマニア、シンガポール、香港 | |
| ■授賞 | | |
| ・神戸ビエンナーレ大賞: 1 作品 | 準大賞: 1 作品 | 審査員特別賞: 1 作品 奨励賞: 2 作品 |
| 入賞: 5 作品 | | |
| ■展示作品数 | ■展示場所 | |
| ・10 作品 | ・メリケンパーク (無料エリア)、中突堤中央ターミナル (かもめりあ) 前 | |

(検証)

前回に引き続き、メリケンパークおよび中突堤付近に10作品を展示した。内1作品は有料会場のゲートにもなり、見た目のインパクトとともに、スマートフォン等から自分の好きな音楽を流すこともできたため、SNSなどでも広く取り上げられ、ビエンナーレ全体のPRにも貢献した。他にも体験型の作品があったこと、人どおりの多い中突堤付近の作品設置数を増やしたことなどから、これまで以上に多くの方に作品を鑑賞していただくことができた。

一方で、会期中に破損する作品や常に補修が必要となる作品もあった。出展者は、強風など予想以上に気象条件の厳しい屋外での展示の難しさを実感したのではないかと。審査員からの指摘もあったように、応募数が減少傾向は、こういった「しつらい」の難しさが影響していることも考えられる。

(3) ペインティングアート展【メリケンパーク】

「絵を描く」という行為を素朴に追及しながら、生命力にあふれ、大画面を活かした絵画作品を公募し、入賞作品を展示した。今回は、大画面ならではの魅力を存分に発揮できる作品を募るため、作品のサイズを最大H:4m×W:10mとした。

■応募状況	(2015)	(2013)
・応募総数	74 作品 (72 組)	52 作品 (52 組)
■授賞		
・神戸ビエンナーレ大賞：該当作品なし	準大賞：2 作品	審査員特別賞：2 作品
奨励賞：1 作品	入賞：5 作品	
■展示作品数	■展示場所	
・10 作品	・メリケンパーク (有料エリア内)	

(検証)

前回、元町高架下を舞台に初めて実施されたペインティングアート展は、公募展では日本最大の作品サイズに拡大し、展示もメリケンパーク会場となった。応募総数は5割近く増加し、この分野のすそ野の広さと関心の高さを感じた。審査において大賞にふさわしい大画面を生かす構成力と密度が伴った作品がなかったとされ、大賞作品が選考されなかったことは残念だったが、日本画や洋画などの異なる専門の作家が一堂に会して競う展示空間では、来場者も「ダイナミックで見ごたえがあり良かった」と作品の迫力を感じてもらえたようである。出展作家からの「これだけ大きい作品を制作できる機会はそうそうない」との声からも、神戸ビエンナーレの独自性は大いに発揮できたと思われる。

一方で、出展作家や来場者から、鑑賞のための十分な「引き」がとれなかったことや自然光の中での展示となったことが残念だったとの声もあったことから、そもそも「美術館展示とは異なる環境下での絵画力の再考を条件とするコンペティション」を意図しており、展示条件等をあらかじめ募集要項やガイドブック、会場のキャプション等に明記すべきであった。

(4) グリーンアート展【ハーバーランド】

人と自然との関わりが求められるなか、時間の経過とともに変化する命ある植物（根付きの生きた植物）を表現メディアとしたアート作品を公募し、入賞作品を展示した。今回は、募集時に作品規模を限定しなかった。

■応募状況	(2015)	(2013)
・応募総数	46 作品 (45 組)	43 作品 (42 組)
■授賞		
・神戸ビエンナーレ大賞：1 作品	審査員特別賞：2 作品	
入賞：3 作品		
■展示作品数	■展示場所	
・6 作品	・神戸ハーバーランド umie、中突堤中央ターミナル (かもめりあ)	

(検証)

4 回目の開催となったグリーンアート展は、毎回応募数も増え、神戸ビエンナーレ発の取り組みとして定着した感がある。今回も造園、デザイン、建築、現代美術など出展作家のジャンルは多様で、作品もバラエティに富んでおり、グリーンアートのすそ野が広がった。大部分の作品がショッピングモールでの展示となり、設営・撤去、会期中の管理は難しい面もあったようであるが、全体としては、より多くの方に盆栽等従来の伝統芸術に加えて、既存の美術館では扱えない生きた植物をメディアとした新たなアートの世界を楽しんでいただけたものと思われる。

これまで同様、植物の動きや期間中の変化を読み込んだ作品がほとんどみられなかったのが残念ではあったが、屋内展示という事情を考慮すればやむを得ない面もある。

(5) 創作玩具国際展【メリケンパーク】

自由な発想と技法で制作された、木・紙・布・アクリル・金属などの素材を活かした芸術性のある斬新な玩具を公募し、入賞作品を展示した。

■応募状況	(2015)	(2013)
・応募総数	71 作品 (63 組)	48 作品 (45 組)
・海外からの応募	8 作品 (5 か国)	2 作品 (台湾)
4: イスラエル	1: イラン、アメリカ、エクアドル、台湾	
■授賞		
・神戸ビエンナーレ大賞: 1 作品	準大賞: 1 作品	審査員特別賞: 3 作品 奨励賞: 2 作品
入賞: 7 作品		
■展示作品数	■展示場所	
・14 作品	・メリケンパーク (有料エリア内)	

(検証)

2 回目の開催となった創作玩具国際展には、前回は大幅に上回る応募があった。海外からの応募が増えたのも、審査講評にあった「商品として量産可能な『おもちゃ』を作る視点ではなく、作品制作にじっくり時間かけて完成させ、ユニークで自由度の高い『おもちゃ』が歓迎される展覧会は、神戸ビエンナーレの他にない」からではないか。その結果、素材や遊び方のバリエーション豊かな作品が入賞、展示され、子どもから大人まで多くの来場者が、楽しみながら作品を鑑賞している光景が印象的だった。入賞作品に商品化の動きがあることも大きな成果である。

展示に関しては、一部作品は、破損や盗難を防ぐため、触れないようにした。触れて遊ぶ玩具の展示方法としては異論もあったが、長期にわたる展示を考えるとやむを得ないものだった。また、作品の耐久性を審査基準に入れてはどうかとの出展作家からの指摘もあったが、対象年齢もさまざまであることを考えると、難しい面があると考えられる。

(6) コミックイラスト国際展【メリケンパーク】

CGが手頃に見えるようになったことに加えて、同人誌即売会やイラスト投稿サイトの充実によってマンガやアニメ的なイラストを描く人が増える中で、新しい才能を積極的に見出し、社会に広く紹介していくこと、マンガ・アニメーション大国である日本として、『コミックイラスト』を主要な現代芸術のジャンルとして位置づけることを目指し、今回は、広く海外からの作品を求めるため国際コンペティションとして公募し、入賞・入選作品を展示した。

- 応募状況 (2015) (2013)
- ・応募総数 144 作品 (133 組) 38 作品 (28 組)
- ・海外からの応募 9 作品 (5 か国)
- 3: ロシア、ウクライナ 1: アメリカ、フランス、エクアドル
- 授賞
- ・神戸ビエンナーレ大賞: 1 作品 準大賞: 1 作品 審査員特別賞: 4 作品 奨励賞: 4 作品
- 入選: 13 作品
- 展示作品数 ■展示場所
- ・23 作品 ・メリケンパーク (有料エリア内)

(検証)

2 回目の開催となった今回は、前回の 4 倍近い応募があり、この分野の関心の高さを示す結果となった。今回から国際コンペティションとなり、作品数は多くなかったものの、海外からの応募があったことは新たな成果である。アナログ、デジタルともに多様な作品の応募があったが、審査員からは、『ザ・コミックアート』といった感じの作品レベルになるには、全体の底上げが必要である。」との指摘もあった。中高生を中心に若者の関心は高く、この分野にこれまで興味がなかった方にも、サブカルチャーも時代の変遷とともに、芸術として高い評価を受けていることを実感してもらうことができたものと思われる。マンガ・アニメーション大国である日本として、『コミックイラスト』を主要な現代芸術のジャンルとして位置づける試みは意義ある成果であったといえる。

展示については、今回は、大賞作品以外は原画の展示を行わなかったが、来場者からは「原画が見たかった」との声も聞かれた。また、「アナログとデジタルをジャンル分けして展示した方がよかった」との意見もあった。

(7) 現代陶芸展【BBプラザ美術館】

伝統的な技法を用いたものから先端的なオブジェまで、永遠に変わらない本質を持ちながらも、伝統・前衛を問わない多様で斬新な現代の陶磁作品を公募し、入賞作品を展示した。

- 応募状況 (2015) (2013)
- ・応募総数 192 作品 (167 組) 264 作品 (222 組)
- 授賞
- ・神戸ビエンナーレ大賞: 1 作品 準大賞: 1 作品 審査員特別賞・兵庫陶芸美術館賞: 1 作品
- 奨励賞: 4 作品 入選: 31 作品
- 展示作品数 ■展示場所
- ・7 作品 ・BBプラザ美術館

※「神戸ビエンナーレ 2015 現代陶芸コンペティション入賞・入選作品展」として、兵庫陶芸美術館において、入賞・入選全作品の会期前展示を実施した。

- 期間 ■展示作品数 ■展示場所
- ・7 月 18 日～8 月 30 日 ・38 作品 ・兵庫陶芸美術館

(検証)

アートインコンテナとともに初回から続くコンペティションで、応募総数は減ったものの、伝統的なものから新しい感覚を持ったものまで、非常にバラエティに富んで力作が全国から集まった。今回は、大賞、準大賞ともに20代の作家が受賞するなど、若手が健闘した印象がある。審査員からも、「伝統的な技と現代的な、フレッシュな感覚を盛り込んで、新しい表現をしようと挑戦している姿が見られて非常によかった」との声があった。さまざまな陶芸の「かたち」を見ることのできる展示は見ごたえがあり、陶芸に興味がない人も、興味深く見ることができたのではないかな。

3. ～神戸の芸術文化の力を発信する～ 神戸力発信部門

(1) メリケンパーク・ハーバーランド・元町高架下エリア 東遊園地・フラワーロードエリア

○海外招待作家展【メリケンパーク】

2012年10月に神戸ビエンナーレと連携協定を締結したアジア最大級の韓国・光州ビエンナーレや、神戸市の友好都市である中国・天津市からアーティストを招聘し、作品を展示した。

- 中国・天津市 Deng Guoyuan “Noah’ s garden”
※2015年8月12日に起こった天津港での爆発事故の影響で、作品本体の輸送ができなくなったために、作品の映像と画像のみを展示、あわせて吉田 泰巳のいけばな“羯磨曼荼羅”を展示
- 韓国・光州広域市 Lee Maelee “Poetry Delivery”、Kim Byoung-taeg “Memories of plaza”
- 展示場所 メリケンパーク (有料会場内)

○国内招待作家展【メリケンパーク・東遊園地】

神戸ビエンナーレゆかりの国内外で活躍する著名なアーティストや、2007～2013年のコンペティションで入賞し活躍中の注目アーティストを招聘し、作品を展示した。

- メリケンパーク John Hathway “The Art Ride”
大西 治・大西 雅子・大西 野々 “コトバノクニ～モジノセカイ～イキルコトバ”
金澤 麻由子 “Polyphony Road (ポリフォニーロード) ～森の神話～”
柴田 美千里 “美脚写真館”
PioRyo (高橋綾×下山肇) “コスモスキーkobeの多元宇宙ー”
- 東遊園地
土佐 尚子 “土佐琳派：音で作られたいけばな”
伊藤 嘉英 “ジャングルジャングルジム”
小原 典子 “月をさがす”
志茂 浩和 (デジリンパ) “GIMON”
ゼロバイゼロ “Isles (アイルズ)”
人長 果月 “Heart”
伊藤 嘉英 “輝く人” (特別展示)

○文化庁メディア芸術祭受賞作品展【メリケンパーク】

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供する文化庁メディア芸術祭の平成26年度（第18回）受賞作品から、選りすぐりの作品を展示した。

- エンターテインメント部門優秀賞受賞作品展 “のらもじ発見プロジェクト”
- アート部門優秀賞受賞作品展 “これは映画ではないらしい”
- エンターテインメント部門審査委員会推薦作品展（2作品）“Patatap” “口先番長”
- エンターテインメント部門、アニメーション部門受賞作品映像プログラム上映（6作品）
- 展示場所 メリケンパーク（有料会場内）

○書道展【メリケンパーク】

伝統的な作品から革新的な作品までさまざまな作品を展示することにより、自由な表現で現代に生きる書の世界を展開した。

- 展示作品数 132 作品 前回 215 作品
- 展示場所 メリケンパーク（有料会場内）
- 主 催 兵庫県書作家協会／神戸ビエンナーレ組織委員会

○イスラエル書道家による作品展【メリケンパーク】

中東・イスラエルで日本の文化や日本の美学に魅せられたアーティスト集団「書道ーテルアビブ」による作品を展示した。

- 展示作品数 24 作品
- 展示場所 メリケンパーク（有料会場内）
- 助 成 イスラエル大使館

○障がい者公募作品展（ハートでアートこうべ2015 入選作品展）【メリケンパーク】

神戸市内の障がい者を対象に、2002年度から実施している絵画・書・写真・陶芸・織物などの公募作品展の入賞作品を展示した。

- 展示作品数 52 作品 前回 53 作品
- 展示場所 メリケンパーク（有料会場内）
- 協 力 ハートでアートこうべ実行委員会

○工芸展【メリケンパーク】

職人によって生み出された陶芸、染織、皮革など、日常生活に不可欠な道具であり、現代における芸術表現を追求する作品を展示した。

- 展示作品数 15作品
- 展示場所 メリケンパーク（有料会場内）
- 主 催 兵庫県工芸美術作家協会／神戸ビエンナーレ組織委員会

○大学作品展【メリケンパーク】

将来のアーティスト育成につなげるため、近畿圏を中心とした大学のゼミや研究室に、フレッシュでクリエイティブな作品の展示機会を提供した。また、会期中に、参加大学による交流会を実施した。

- 参加大学数 12大学15ゼミ等 (5ゼミ等×3期)
- 展示場所 メリケンパーク (有料会場内)

○アート de 元気ネットワーク作品展【メリケンパーク】

兵庫県内各地で開催されている特色ある芸術祭と連携し、各芸術祭の参加アーティストの作品展示や情報発信を行った。

- 参加団体 7団体
- 展示場所 メリケンパーク (有料会場内)
- 主 催 アートde元気ネットワーク推進会議／神戸ビエンナーレ組織委員会

○いけばな未来展・野外展【元町高架下・メリケンパーク】

兵庫県をはじめとする全国の華道家たちによる、新しいけばなの展開。「元町高架下 (モトコー)」「メリケンパーク」を会場として、伝統を尊重しながらも最新の表現を追求したいけばなを披露した。

- いけばな未来展 75 作品 前回 136 作品
- いけばな野外展 6 作品 前回 6 作品
- 展示場所 元町高架下・メリケンパーク (有料会場内)
- 主 催 いけばな未来展実行委員会／兵庫県いけばな協会／神戸ビエンナーレ組織委員会

(検証)

海外招待作家展では、今回、メリケンパーク会場の目玉展示の1つとして期待の大きかった中国・天津市からの作品「Noah's garden」は、2015年8月12日に発生した天津港での爆発事故の影響を受け、作品の搬入が不可能となり、本体の展示ができなかったことは非常に残念だった。光州からの2作品については、絵画、インスタレーションともに、光州ビエンナーレの奥深さを感じることができた。

国内招待作家展では、メリケンパークの“The Art Ride”は、機器の故障が多かったものの、テーマパークの乗り物アトラクション型メディアアートという新たな試みを多くの来場者が体感した。“土佐琳派：音で作られたいけばな”は、東遊園地会場のコンテナ側面を鮮やかに彩り、会場内を幻想的な雰囲気包みこんだ。

今回初となった過去の神戸ビエンナーレ入賞作家9名による、メリケンパーク会場と東遊園地会場での作品展示については、メリケンパーク会場では「家族がスキ。」というコンセプトのもと、子どもから大人まで多くの来場者が、ユニークな作品の数々を玩具やコミックイラストとともに楽しんだ。東遊園地会場では「神戸の夜がスキ。」というコンセプトで、公園内各所に設置された作品の光や映像が、来場者を驚かせるとともに、有料会場へと導いた。

これら招待作家の作品とともに、「文化庁メディア芸術祭受賞作品展」も、ゲームやアニメなどに関心の高い若い世代だけでなく、“のらもじプロジェクト”などは幅広い世代の方が興味を持って触れていた様子が印象的であった。兵庫県立美術館での「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム展」との連動を考慮した作品展示とし、誰もが気軽にアートに触れ、楽しいと思っていただけただけという点で、まさに神戸ビエンナーレらしい取り組みであった。

神戸力発信部門では、地元・神戸の様々な芸術団体やアーティストを紹介する取り組みである。「書道展」では、今回、大型テントでの展示となったことで「引き」の問題が解消され、鑑賞しやすくなった。「工芸展」もあわせて、来場者からは素晴らしさを感じたという声があった一方で、素通りしてしまう方も見受けられたことから、会場でのアーティストトークなど作品に興味を持ってもらう工夫があってもよかった。

「障がい者公募作品展」は、今回もバラエティ豊かな作品が来場者の好評を博し、大学生への作品展示と交流の場を生む「大学作品展」では若さあふれる作品が展示され活発な交流の場となった。

「アート de 元気ネットワーク作品展」では、県下の芸術祭の作品展示と情報発信を行うことで、神戸ビエンナーレの当初からの目的の1つである芸術文化活動の連携を強化することができた。

今回の最もチャレンジングな取り組みの1つが、元町高架下でのいけばな未来展・野外展だった。高架下の空き区画という一見いけばなには似つかわしくないと思われる空間だったが、来場者からは、「モトコーでもいけばなは存在感があり、すばらしかった」「コンクリートむき出しの会場といけばなが調和していた」といった声が聞かれた。いけばなの多様性を多くの人に感じてもらえたのではないかな。商店街の空き区画の活用ということから、長い商店街に作品が分散してしまい、来場者からは「分かりにくい」との声が多かった。アクセス情報にもう少し工夫が必要だったと思われる。

(2) ミュージアムロードエリア

○「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展【兵庫県立美術館】

テクノロジーの進化とともに変化し続けるマンガ、アニメ、ゲーム。手塚治虫が没した1989年から現在までの四半世紀に創作された、特徴的な約60点を通して、表現の多様性を概観した。

- 展示作品数 60 作品
- 展示場所 兵庫県立美術館ギャラリー棟3階
- 主催 兵庫県立美術館／(株)ワコールアートセンター／神戸ビエンナーレ組織委員会

○開館3周年記念展 横尾忠則 続・Y字路【横尾忠則現代美術館】

兵庫県に生まれた横尾忠則のライフワーク、「Y字路」シリーズの内、2006年に出版した画集以降のシリーズ作品を中心に展示した。横尾の実験的かつ意欲的創作が一堂に会した。

- 展示作品数 70作品
- 展示場所 横尾忠則現代美術館 2・3階展示室
- 主催 横尾忠則現代美術館（[公財]兵庫県芸術文化協会）／神戸新聞社／毎日新聞社／神戸ビエンナーレ組織委員会

○兵庫・神戸の仲間たち展【BBプラザ美術館】

兵庫県内および神戸市内で活躍する、個性あふれる地元のアーティストによる作品展。日本画や洋画を2期にわけて展示した。

- 展示作品数 72作品
- 展示場所 BBプラザ美術館
- 主催 BBプラザ美術館／神戸新聞社／神戸ビエンナーレ組織委員会

（検証）

兵庫県立美術館会場では、これまで神戸ゆかりの作家の展示を行ってきたが、今回は、神戸ビエンナーレの企画展示と連動して、「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム展」が開催された。これは、神戸ビエンナーレが「文化庁メディア芸術祭受賞作品展」などを長年継続開催してきた経緯から実現したものであり、子どもから大人まで、実際に読んで、見て、遊んで楽しめる大規模な展示がたいへん好評で、前回比2倍以上の来場者でにぎわった。

横尾忠則現代美術館では、ライフワークである「Y字路」シリーズ70作品の展示は圧巻で、横尾忠則の世界を堪能することができた。

BBプラザ美術館では、地元の絵画系アーティストの作品をテーマごとに展示し、来場者からは、「コンパクトだが多彩な展示でよかった」といった声が老若男女を問わず聞かれた。

一方で、今回はシャトルバスの運行もなく、来場者からの「ミュージアムロードエリアは、全体的にあまりビエンナーレ感が感じられなかった」との声は課題ではあるが、全体としては、来場者数も大幅に増え、好評であった。

（3）まちなか

○まちなかコンサート

普段は演奏会場として使用しないチャペルや神社など、まちの資源を活かしたコンサートを実施した。

- 回数 32回（会期中29回）
- 会場 9会場（兵庫県立美術館（1Fアトリエ）、シマブンBBプラザホール、兵庫県公館、ホテルオークラ神戸（チャペル）、神戸ハーバーランドスペースシアター、神戸聖ミカエル大聖堂、生田神社会館、湊川神社神能殿、神戸市役所
- 来場者数 7,130人（会期中6,830人）

○まちなかアートギャラリー

市内に点在するギャラリーと連携し、まちなかでもアートに触れる機会をつくとともに、ビエンナーレ会場と各ギャラリー間の回遊性向上を図った。

- 参加 18ギャラリー
田中美術、GALLERY北野坂、ギャラリーA0、アート○美空間Saga、トアギャラリー、
ギャラリー&スペース DELLA-PACE、ギャラリープチポワン、luvart FACTORY Q、
ART SPACE AZITO.、元町コンフォートギャラリー、gallery shop Si、リサブレア、
南京町ギャラリー蝶屋、神戸波止場町TEN×TEN、ギャラリー花六甲、川田画廊、
御影ギャラリー桐、南天荘画廊
- 来場者数 12,000人

(検証)

まちなかコンサートは、毎回の取り組みを重ね、神戸ビエンナーレの企画として定着した。教会での雅楽や神社でのオペラなどの意外性ととともに、プロフェッショナルの公演をさまざまな施設で気軽に楽しむことができるところが大きな魅力であり、神戸の文化力を感じることができた。また、毎回の公演は、ビエンナーレ全体の広報PRのよい機会にもなった。

まちなかアートギャラリーは、今回は参加ギャラリーを広く公募した。ビエンナーレにあわせて、ギャラリーを回遊してもらえるよう、ギャラリーマップを作成、配布したが、もっと早い段階から企画・検討を行い、ビエンナーレ入賞作家の個展をギャラリーで実施するなど、より有機的な連携を行うべきだった。

(4) その他 神戸力発信部門

○TodaysArt. JP edition1.1 KOBE 2015

「アート×音楽×先端技術」をテーマに、オランダのデン・ハーグで開催されている先端アートフェスティバル『TodaysArt』の日本版を開催した。

- 開催日 9月5、19～23日
- 会場 troopcafe、神戸アートビレッジセンター
- 主催 [一社]TodaysArt JAPAN／神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 6,385人

○沖縄の日「サウンドオブ琉球～世は稔れ～」

兵庫県と友愛協定を締結して44年の歴史がある沖縄の古典から現代の音楽を中心に琉球舞踊やエイサーなどを織り交ぜたステージを展開した。

- 開催日 9月25日
- 会場 神戸文化ホール中ホール
- 主催 合同会社白保企画／NPO法人関西沖縄文化研究会／関西琉球舞踊研究所／
神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 647人

○神戸アートマルシェ2015

神戸だけでなく、全国からギャラリー・画廊がホテルのワンフロアに集結し、ギャラリストにより厳選されたアート作品の展示や販売を行った。

- 期 間 9月25～27日
- 会 場 神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 参 加 35ギャラリー
- 主 催 神戸アートマルシェ実行委員会／神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 2,500人

○ふれあいの祭典 兵庫県いけばな展

兵庫県いけばな協会の各流派家元・代表者、会員らによる展示を行った。

- 期 間 10月1～6日
- 会 場 大丸ミュージアム<神戸>
- 主 催 ふれあいの祭典いけばな展実行委員会／兵庫県／兵庫県いけばな協会／
[公財]兵庫県芸術文化協会／神戸新聞社／神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 8,932人

○めぶくアート展 神戸+秋田・関西・気仙沼・NY・仙台・石巻

東日本大震災からの復興をアートやデザインを通じて支援するプロジェクト。東北6県と関西の人と地域がつながり、「希望・夢・愛」を一人一人の思いや願いを束ね国内外へ発信。2011年より東北において開催され、今年は阪神・淡路大震災から20年目の節目となることから、神戸ビエンナーレ2015プレ事業として開催した。

- 期 間 8月25～30日
- 会 場 市役所市民ギャラリー
- 主 催 めぶくアートプロジェクト実行委員会／神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 600人

○成田一徹切り絵展

神戸の風景を独自の視点で切り取った不世出の切り絵作家・成田一徹の作品展を開催した。

- 期 間 9月29～10月12日
- 会 場 市役所市民ギャラリー
- 主 催 神戸市／神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 1,700人

○こうべ市展 市長賞作品展2015

市民の芸術活動の振興を図る目的で、毎春開催される「こうべ市民美術展」。今年の市長賞受賞者の作品をビエンナーレ会期中に展示した。

- 期 間 10月14～24日
- 会 場 市役所市民ギャラリー
- 主 催 [公財]神戸市民文化振興財団／神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 1,204人

○神戸ビエンナーレ2015 フォトコンテスト

「あなたのスキ。な神戸ビエンナーレ2015」をテーマに、ビエンナーレ会場における展示作品や風景の魅力あふれる写真を募集し、審査の上、授賞した。応募全作品をビエンナーレ会期中に展示した。

(コンテスト)

- 募集期間 9月19日～10月9日 ■応募総数 97点
- 授賞 大賞1点 準大賞2点 特別賞3点 奨励賞5点
- 主催 神戸ビエンナーレ組織委員会

(展示)

- 期間 10月27日～11月1日 ■会場 市役所市民ギャラリー
- 来場者数 600人

※期間終了後は、引き続きメリケンパーク会場で展示した。

○お菓子でアートウォーク

お菓子の材料を使って「山水花鳥風月」などの自然風物を写実的かつ芸術性豊かに表現する工芸菓子を展示するとともに、参加店舗等を紹介するリーフレットを作成、配布した。

- 期間 9月19日～11月23日
- 展示場所 参加店舗の内5店舗、中突堤中央ターミナル(かもめりあ)、BBプラザ美術館
- 参加店舗 34店舗
- 主催 兵庫県菓子工業組合／神戸ビエンナーレ組織委員会

○Site Specific Dance Performance #5 サン=サーンス作曲「動物の謝肉祭」

2009年より兵庫県立美術館で行われている「場の特殊性」にこだわったダンス公演。

- 日程 10月25日 ■会場 兵庫県立美術館・海側大階段
- 振付・出演 神戸大学舞踊ゼミほか有志
- 総合演出・監修・振付 関典子 ■来場者数 400人

(検証)

神戸ビエンナーレ開催にあわせて、組織委員会も主催に入り、さまざまな企画展示、コンサート等が開催された。特に今回は、東遊園地・フラワーロードエリアが会場となったことから、市役所市民ギャラリーを活用した企画展示も複数行われ、エリア全体でビエンナーレを盛りあげることができた。

個々の企画展示は、さまざまなアートに触れることのできるよい機会であったが、全体として広報PR不足は否めなかった。

4. 連携事業・協賛事業

(1) 連携事業

○LIFE IS CREATIVE 展 高齢社会における、人生のつくり方。

「KOBE デザインの日」記念イベントとして開催された、新しい高齢社会のあり方とワクワクする未来を創造する展覧会。あわせて、神戸の豊かな食文化で訪れる人をおもてなしし、デートの思い出をつくる「date. KOBE プロジェクト」とも連携した。

- 期 間 10月3～25日
- 開催場所 デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)
- 主 催 デザイン・クリエイティブセンター神戸

○アート de 元気ネットワーク推進会議

兵庫県内で開催される特色ある芸術祭や地域の文化力向上とまちおこしのアートプロジェクトの連携を図る推進会議。

- アート de 元気ネットワーク推進会議
 - ・下町芸術祭 2015 - 長田アートコモンズ - (10月31日～11月13日)
 - ・西宮船坂ビエンナーレ (2016年開催予定)
 - ・のせでんアートライン妙見の森 2015 (10月10日～11月23日)
 - ・龍野アートプロジェクト in パリ (9月4、7～11日)
 - ・龍野アートプロジェクト コンサート (11月14、15日)
 - ・公募展 木彫フォークアートおおや (9月18日～10月4日)
 - ・あさご芸術の森アートフェスティバル 2015 (7月23～26日)
 - ・丹波篠山・まちなみアートフェスティバル (9月19～27日)
 - ・淡路島アートセンターのアートプロジェクト (通年実施)

○六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2015

現代アートを通じて六甲山の魅力を五感で楽しめる展覧会。31組のアーティストが展示やパフォーマンスを行った。

- 期 間 9月12日～11月23日
- 開催場所 六甲山上 全11会場
- 主 催 六甲山観光株式会社／阪神電気鉄道株式会社

○第60回 CWAJ 現代版画展 神戸展

神戸では4回目の開催となる、日本の優れた現代版画を紹介・販売する展覧会。若手対象の記念大賞展と60年の歴史をたどる招待作家展が行われた。

- 期 間 11月6～8日
- 開催場所 神戸倶楽部
- 主 催 [一社]CWAJ

(2) 協賛事業

神戸ビエンナーレの趣旨に賛同する市民や芸術文化団体が実施する事業を協賛事業とし、神戸ビエンナーレホームページ等で広報PRを行った。

- 対象 4月1日～11月23日の間に、原則として兵庫県内で実施された神戸ビエンナーレの趣旨に賛同する芸術文化活動
- 事業数 136事業 前回 248事業

(検証)

東遊園地会場に近いKIITOについては、デザインの日記念イベント「LIFE IS CREATIVE 展」との相互PRを強化するとともに、KIITOが阪神電鉄や市内商業者等と進める「date.KOBE プロジェクト」とも連携し、阪神電鉄が作成した小冊子でもビエンナーレを広くPRしてもらうことができた。

他の連携事業や協賛事業とも相互PRを行ったが、効果があまり感じられないとの声もあった。協賛事業については今回事業数が大幅に減少したが、例えば協賛事業についてはパンフレットを作成するなどの工夫が必要だったと考えられる。

IV 管理・運営事項の検証

1. 組織体制

神戸ビエンナーレ2015では、前回同様、組織委員会のもとに企画委員会を設けて基本方針を策定し、それを統括して実行する総合プロデューサー等ボードメンバーを選任した。また、さまざまな角度から事業全体について総合的にアドバイスをいただくため、10名の特別アドバイザーにご就任いただいた。各部門の実務を監督するディレクターについては、総合プロデューサーが指名した。なお、特別アドバイザーを含め、神戸ビエンナーレに関わるボードメンバーやすべてのディレクター等は、これまで同様、ボランティアでそれぞれの役割を担っていただいた。

- ・組織委員会 …………… 顧問 3名、会長 4名、委員38名、監事 2名
- ・企画委員会 …………… 委員長、副委員長、委員 8名
- ・アドバイザーメンバー …… 特別アドバイザー10名、参与 2名
- ・ボードメンバー …………… 総合プロデューサー、アーティスティックディレクター 2名、
エグゼクティブディレクター 4名
- ・ディレクター …………… 32名

2. 広報・宣伝

前回の検証結果等を踏まえ、神戸ビエンナーレの内容がよりわかりやすい広報PRに努めた。また、リアルタイムかつ双方向に情報発信を行うことができるSNSを積極的に活用した。

このほか、全国に向けてビエンナーレを発信するため、プレイベントを初めて東京で開催したほか、市内各所での広報PRも拡大して展開した。

(神戸ビエンナーレCheersによる広報活動についてはIII 1 (1) を参照)

(1) デザイン

今回のテーマ「スキ。[su:ki]」をイメージしたデザインの制作をデザイナー・大野好之氏に依頼した。このデザインを用いて、チラシ・ポスター、グッズ、看板などあらゆる製作物において、統一したデザインで広報PRを展開した。

グッズのうち、Tシャツ、クリアファイル、手ぬぐいについては、メリケンパーク、東遊園地会場でアーティストグッズとともに、公式グッズとして販売し、好評を得た。

(2) チラシ・ポスター・街頭宣伝物等

チラシ・ポスターについては、市内では市所管施設や会場近隣はもちろんのこと、自治会や商店街にも掲示を依頼したほか、引き続き、近畿圏の交通事業者であるスルッと KANSAI 加盟各社や JR 西日本とタイアップして、車内吊りや駅貼り、配布を行った。

また、近畿圏以外からの来場者開拓のため、観光セクションを通じたチラシ・ポスターの配布に取り組んだほか、全国の美術館、美術系大学等にも送付した。

街頭宣伝物では、これまでも取り組んできた花時計のデザイン、主要幹線でのバナーの掲出、市役所庁舎での横断幕、新神戸駅と三宮交差点での大看板の設置、花時計ギャラリーでの展示、そごう・大丸での懸垂幕の掲出、三宮センター街やハーバーランド等でのプロモーションビデオの放映などに加え、ミュージアムロードでのバナー掲出、東遊園地会場への動線となるさんちかやフラワーロードでの案内表示、三宮センター街東通商店街での横断幕の掲出などを行った。

また、都心の「さんちか夢広場」「三宮中央通り地下通路」、商業施設「HDC 神戸」、観光施設である「須磨海浜水族園」、新たな神戸の玄関口「神戸三宮フェリーターミナル」に招待作家の作品を展示し、まち全体で神戸ビエンナーレ開催の PR を行った。

(3) 公式ホームページ

神戸ビエンナーレが芸術祭であることを知っていただくために、公式ホームページを、画像を中心としたより視覚的にわかりやすいホームページにリニューアルするとともに、スマートフォンでの活用を前提に Google Map とのリンクし活用できるよう工夫した。また、会場の雰囲気や様子が伝わるように、動画投稿サイト YouTube にも神戸ビエンナーレ 2015 の公式チャンネルを設けた。

一方で、全面的なリニューアルを図ったことにより、開幕までに十分に情報の更新が行えなかったことや、毎日の情報発信をホームページのお知らせ欄から Facebook を中心とした形に移行したこともあって、ホームページへの訪問回数は、前回に比べ減少した。

■ホームページユーザー訪問回数（会期中） 148,292 回（前回 184,621 回）

(4) 公式 Facebook 等

情報入手の手段として Facebook 等の SNS の利用が急速に普及している現状を踏まえ、これまで公式ブログ中心の情報発信を Facebook 中心の情報発信（Twitter にも連携）とし、会期中はほぼ毎日最新の情報を発信した。

また、神戸市企画調整局が進める「KOBE 学生まちパス」の対象施設の 1 つとして各会場を位置付け、大学生のモニターによる SNS での情報発信を行っていただくとともに、市長室広報課と連携して SNS ユーザーやブロガーを対象とした説明会を開催するなど、SNS 等を活用した若い世代への情報発信強化にも取り組んだ。

■公式 Facebook 「いいね」数 3,104 （終了翌日 11 月 24 日）
（前回 1,974 終了日 2013 年 12 月 1 日）

■公式 Twitter フォロワー数 5,809 人（終了翌日 11 月 24 日）
（前回ピーク時 4,710 人 2013 年 11 月 22 日）

(5) テレビ・新聞・雑誌媒体等

テレビ・ラジオ・新聞等のメディアによる情報発信については、プレスリリースなどを通じて各メディアに積極的にアプローチしたものの、前回より減少した。限られた事業費の中で、有料記事の掲載を極力見送るとともに、ターゲット層により直接アプローチできるインターネットや SNS の広報にシフトしたことも影響したと思われる。

そうした中でも、新たに阪神電鉄とタイアップしてガイド冊子を作成し、沿線で配布するなど、より効果的な広報 PR の拡充に努めた。

- テレビ・ラジオ等放送 29 番組 (前回 37 番組)
- 新聞・雑誌等記事・広告記事 188 記事 (前回 222 記事)

(6) 公式ガイドブック

前回と同じく美術手帖 (主に 20~30 代をターゲットにした美術専門の月刊誌) と提携して公式ガイドブック『公式ガイドブック 神戸ビエンナーレ 2015』を 8 月末から全国の主要書店で販売した。

今回は、観光情報などは省き、企画展示や作品紹介に特化したシンプルな構成とし、価格を前回よりも安価な 1,000 円とした。

(7) プレイベント

神戸ビエンナーレ 2015 のプレイベントとして、2014 年 10 月に初めて東京都美術館において、世界ビエンナーレ協会 (IBA) 会長の基調講演「差異の美学」やトークセッションによる公開シンポジウムと作品募集説明会を開催した。12 月には湊川神社でも公開シンポジウムを行うなど、方針の確認や告知にも力を注いだ。また、2015 年 1~2 月にかけて、新長田大正筋商店街の空き店舗を活用し、兵庫県内の芸術祭や地元長田の地域団体と連携して、「新長田アートプロジェクト」を開催し、機運の醸成を図った。

(神戸ビエンナーレ 2015 第 1 回公開シンポジウム+作品募集説明会)

- 開催日 2014 年 10 月 26 日
- 会場 東京都美術館
- 来場者数 150 人

(神戸ビエンナーレ 2015 第 2 回公開シンポジウム)

- 開催日 2014 年 12 月 17 日
- 会場 湊川神社 楠公会館
- 来場者数 150 人

(新長田アートプロジェクト)

- 期間 2015 年 1 月 10 日~2 月 11 日
- 会場 大正筋商店街 (アスタくにづか) 空き店舗 5 区画
- 主催 アート de 元気ネットワーク推進会議/神戸ビエンナーレ組織委員会
- 来場者数 3,000 人

(検証)

テーマ「スキ。」をイメージしたデザインは、当初ポスターなどでは「芸術祭とわかりにくい」との声もあったが、「スキ」の文字が浮かびあがるのが徐々に浸透していき、最終的にはTシャツなどのグッズも好評だった。

チラシ・ポスターは、これまでの「神戸ビエンナーレの内容、趣旨が伝わりにくい」との声を受けて、招待作家作品のビジュアルを使用した結果、ビエンナーレがイメージしやすくなったのではないかと。会期中に各会場で配布する会場マップは今回会場ごとのシンプルなものにしたが、ガイドブックを購入しない来場者からは無料の「持って帰って思い出になるようなパンフレットがほしい」との声もあった。

街頭宣伝物に関しては、前回、「ビエンナーレを開催している雰囲気が感じられない」との指摘もあったため、招待作家のユニークな作品を活用したPRを行い、一定の効果があつた。

ホームページについては、これまでの指摘から、デザイン等を大幅にリニューアルしたものの、来場者からは、「どの展示がどこの会場で行っているのかHPを見てもわからなかった」「見たい作品がどこにあるのかわかりづらかった」「会場ごとの開場時間、閉場時間がわかりにくかった」といった声が多数聞かれた。また、出展作家からは、「訂正事項がなかなか反映されなかった」との声もあった。写真を多用した芸術祭らしいHPだったが、必要な情報が誰でも簡単に入手できるようなさらなる工夫・改善が必要だったのではないかと。

TwitterやFacebookなどでは、神戸ビエンナーレを楽しむ様子が頻繁にアップされ、SNSを多用する若い世代には好印象だった。

今回、神戸ビエンナーレ Cheersの発案による、タイアップメニューやタイアップ商品などユニークな企画が実現したことは、広報PRの新たな展開として非常によかった。会期前に東京で開催したシンポジウムも初めての取り組みだったが、情報発信がやや不足しており、検討の余地を残した。メディアへの情報発信について、他の芸術祭ではもっと力を入れており、戦略的な広報を行うための一定の体制が必要ではないかとの指摘もある。

初めて中央区以外で開催したイベントについては、他地域への拡がりや他の芸術祭との連携という点で一定の効果があつた。

3. 会場の設営と運営

(1) 会場設営

神戸ビエンナーレ2015では、「メリケンパーク」に加え、新たに「東遊園地」をメイン会場とし、アートインコンテナ国際展等の夜間展示を行った。また、グリーンアート展を開催した「ハーバーランドumie」および「中突堤中央ターミナル(かもめりあ)」、いけばな未来展・野外展を開催した「元町高架下」とあわせて、計5か所で会場設営を行った。

【メリケンパーク会場】

メイン会場の1つとなったメリケンパーク会場では、前回のコンテナから大型テントを利用した作品展示に変更し、コンテナ展示での暑さや雨天時など鑑賞環境の課題を解決した。大型テント5張の内3張りをデッキで繋ぎ、一体感を出すとともに、来場者の移動しやすさに配慮した。また、前回東西2か所にあった入場ゲートを北側1か所にし、運営の効率化を図った。

有料会場の囲い込みについては、前回の方法では無料エリアとの仕切りに閉鎖感があつたことから、背の低いパイプフェンスを使用した。また、有料エリア内は、これまでと同様、スロープ・手摺・点状ブロックを設置し、バリアフリー対策を行った。

来場者にゆっくり作品を鑑賞していただけるように、飲食とグッズ販売を併設した休憩コーナーを確保した。また、来場者の利便性に配慮し、汲取り式の水洗トイレを設置する一方で、喫煙コーナーは設けず、会場内は全面禁煙とした。

作品の展示にあたっては、入賞作家招待作品展や創作玩具国際展の作品など、子どもも楽しめる参加・体験型の作品を集めたテントや、最大 H4m×W10m のペインティングアートを展示するテントを作るなど、大型テントを最大限活用した。文化庁メディア芸術祭の映像作品上映などのテントには遮光幕を使用し、鑑賞しやすい空間を確保した。

アートインコンテナ国際展の大賞作品が好評であったことから、東遊園地会場会期終了後、コンテナごとメリケンパーク会場に移設し、展示した。

■テント面積 合計 2,205 m² (480 m²・450 m²×2・375 m²・450 m²)
(2013 コンテナ面積 合計 1,813 m² (展示コンテナ 40ft:57 基・20ft:8 基))

【東遊園地会場】

有料会場として、東遊園地内にコンテナを設置し、アートインコンテナ国際展の作品を展示した。コンテナ上部には 4 台の大型プロジェクターを設置し、コンテナの側面 4 か所に招待作家の映像作品を投影した。

有料会場はグラウンド部分であったため、通路部に仮設のマットを敷設し、雨天時の対策を行った。無料エリアとの仕切りには、メリケンパーク同様、背の低いパイプフェンスを使用した。

無料エリアでは入賞作家招待作品展の 6 作品を展示したが、一部の作品は、フラワーロードから東遊園地に至る来場者誘導となるよう配置し、また、東遊園地内の樹木や既存の彫刻に「光の演出」をすることにより展示会場周囲の照明効果を上げた。

東遊園地会場は他イベントとの調整により、11月1日で閉幕となり、撤去期間も4日間と短かった。

■コンテナ数 合計 21 基 (展示コンテナ 40ft:15 基、倉庫他コンテナ 20ft:6 基)

【その他会場】

しつらいアート国際展については、メリケンパークの無料エリアの他、ハーバーランド会場からメリケンパーク会場入場ゲートまでの導線上にも設置した。作品設置の際、安全確保の観点から強風時対策について作家と協議を行い、複数の作品に敷鉄板の基礎を設けることになった。

グリーンアート展会場のハーバーランド umie については、商業施設のため、作品設置上の制約が多く、施設管理者との協議を重ねて、施設利用者の通行や店舗の営業に支障のない設置場所の選定を行った。作品の設置、撤去は施設閉館後の深夜作業となった。一方、中突堤中央ターミナル(かもめりあ)については、前回同様、営業時間内に設営、撤去作業を行うことができた。

いけばな未来展・野外展会場となった元町高架下については、所有者(JR 西日本)と協議しながら、作品を設置するための立方体(単管組み:3m×3m×3m)を設置した。

(2) サイン

【メリケンパーク会場】

有料エリアへの誘導については、来場者導線上にある大型テントの側面を利用し、統一デザインによる大型のサインを設置した。

グリーンアート展会場であるハーバーランドからメリケンパーク会場までの導線上には、案内誘導サインやバナーを設置することにより、来場者の誘導だけでなくビエンナーレ開催の雰囲気づくりにも努めた。

一方、最寄駅では改札付近に案内誘導サインを設置したものの、導線上にはほとんど設置できなかった。

有料エリア内では、入場ゲートで会場マップを配布するとともに、大型テント入口各所にも立て看板による会場マップを設置し、来場者がスムーズに移動できるように配慮した。

また、企画展示ごとのサインについては展示エリア入口付近に色分けしたタペストリー型のサインを設置し、視認性を高めた。

【東遊園地会場】

コンテナ外壁面および既設の天井トラス部へ大型のサインを設置し、夜間照明を行った。また、入場ゲートからの通路部のコンテナを利用し、全体マップなどの案内を行った。

開催時間が夜間であるため、案内サインおよび作品キャプションに照明を取り付けた。

最寄駅からの導線上にある地下通路では吊サインや壁面サインを設置し、案内誘導を行った。また地上部でも、導線上の市役所庁舎に横断幕を設置、歩道の街路灯にも照明と一体的なサインを設置するなど、案内誘導とともに、ビエンナーレ開催のアピールにも努めた。

【その他】

メリケンパーク、東遊園地以外の会場についても、統一デザインによる表示を行い、ビエンナーレ全体として一体感が出るよう配慮した。

(3) 会場運営

会場運営全般としては、台風が接近することもなく天候にも恵まれ、無事に会期を終えることができた。

メリケンパーク会場、東遊園地会場、ハーバーランド会場、元町高架下会場には、券売・改札業務（東遊園地、メリケンのみ）および管理、案内・誘導業務を行うスタッフを配置した。

メリケンパーク会場入場ゲートは、北側1か所だけだったが、メリケンパーク利用者の来場を促すため、会期中から土日祝に限り、南側にも臨時の入場ゲートを設けた。

また、メリケンパーク会場内にはフードコートを設け、公募により選定した事業者が、会期中の全日、飲食物の提供を行うとともに、物販コーナーでは、ビエンナーレグッズや土産物の販売を行った。一方、東遊園地会場では、飲食の提供は行わず、グッズ販売は券売窓口で行った。

夜間展示を行った東遊園地会場では、公園管理者との協議により、会場時間外は有料会場を仕切るパイプフェンスを外して、公園利用者が自由に通行できるようにした。

(検証)

メリケンパーク会場をコンテナから大型テントに変更したことにより、来場者は晴雨に関わらずゆっくり作品を鑑賞し、休憩することができた。大幅な展示会場の変更になることへの不安もあったが、鑑賞環境が改善され、来場者にとってはもちろん、作品を見てもらう側の作家にとってもよかったのではないかと。一方で予算内で最大限に効率的な会場設営を行ったが、来場者からは、「会場施設もより芸術的でアートなものにすべきであると感じた」との声もあった。また、休憩スペースでの飲食の提供については、神戸のB級グルメメニューを用意していたが、「フードコーナーをもっと充実させてほしい。神戸のグルメなどもあったらいいと思う」といった声もあった。これまでも会場内における飲食の提供は課題となってきたが、平日も含めた会期中の全日に出店しなければならない運営事業者側の難しさもあるようである。

初めて会場とした東遊園地会場では、コンテナ設置エリアをはじめ、さまざまな制約があったが、その中でも随所に工夫が見られた。特にグラウンド部分に敷設したコンテナ間を結ぶ樹脂ブロックは、雨天時対策としても非常に効果的だった。また、有料会場外の樹木や彫刻の「光の演出」は、東遊園地会場全体の魅力アップにつながった。案内サインや作品ごとのキャプションは、小さなライトだけでは見にくいものもあり、工夫が必要だった。

案内サインについては、前回、最寄駅から会場までの表示がほとんどなく、来場者から「アクセスがわかりにくい。」との指摘があり、今回は、メリケンパーク会場周辺やさんちか通路などに可能な範囲で表示したが、なお同様の声が聞かれ、抜本的なサイン計画が課題となった。

メリケンパーク会場や東遊園地会場では、Cheersによる会場案内も行われたが、スタッフの体制も限られており、来場者からは、「体験型作品の楽しみ方がわからなかった」との声もあった。

4. 事業収入の確保

神戸ビエンナーレ2015については、文化庁の文化芸術振興費補助金（「平成26年度地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」「平成27年度文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」）に採択されたことにより、神戸市として99百万円の国庫補助金を受け入れることができた。また、厳しい財政状況の中、減少傾向ではあるものの、今回も引き続き、組織委員会委員の企業をはじめ多くの企業・団体のご理解・ご協力のもと、63社・団体等から38百万円を超える寄付金をいただいた。その他、コンペティションの審査料も貴重な財源であった。

入場料収入は前回決算とほぼ同額の40,000千円を見込んでいたが、約26,000千円にとどまった。前回は大幅に下回った主な要因としては、東遊園地会場の新設により有料会場がさらに分散し、メリケンパーク・東遊園地会場セット券（1,000円）、メリケンパーク会場券（800円）、東遊園地会場券（500円）等、券単価が低い券の販売が当日券売上の多くを占めたことや、前売券の団体向け斡旋販売の減少などがあげられる。

（検証）

前回は引き続き、文化庁の補助金を確保できたことは、神戸ビエンナーレに対して一定の評価があったものと理解できる。一方、厳しい経済情勢の中でも、前回とほぼ同数の企業・団体からの寄付金をいただくことができたが、寄付金総額は残念ながら前回は下回る結果となった。また、今回はいくつもの新たな取り組みを行い、個々の取り組みについては一定、来場者からの評価を得たにもかかわらず、入場料収入が減少したことから、チケットの種類や価格の設定について、より慎重に行う必要がある。

V 総括

神戸ビエンナーレは、コンペティション方式による新進アーティストの発掘・育成とともに、現代アートに特化せず、伝統芸術やポップカルチャーまで、「神戸らしい」多様で進取なアートを取り上げることで、市民生活に近く、他では見られないビエンナーレ（芸術祭）として進化し続け、多くの人が拮がりあるアートの魅力に触れ、楽しんできた。

このような神戸ビエンナーレの特徴は、「神戸の震災後の文化創生都市づくりと非常にマッチングしており、世界のあらゆるビエンナーレの中でも、これほど作品と市民との距離が近い芸術祭は他にない」「良し悪しを語る芸術から離れて、市民に優しいビエンナーレを作っている神戸ビエンナーレが、現代美術に執着的な世界の大半のビエンナーレに対し、相当な影響を与える可能性がある」と私は考えています」

（2014年10月26日東京都美術館で開催したプレイベント 国際ビエンナーレ協会（IBA）会長Yong-Woo Lee氏）とも評された。

神戸ビエンナーレ2015では、テーマを“スキ。[su:ki]”とした。国内外からさまざまな人・もの・情報を受け入れてきた「軽み」（かるみ）の文化を持つ神戸にふさわしいテーマであると同時に、日本の伝統的な美意識である「数寄」をイメージしたコンセプトであり、個人の好みや感性を存分に発揮した作品を求めた。

今回のビエンナーレでは、これまで積み重ねてきた経験や、例えば鑑賞環境の改善、芸術祭としての質の確保、市民参画の充実といった課題を踏まえ、次のような取り組みを行った。

- ①新たに東遊園地をメイン会場に加え、初めて夜間展示のみの開催とすることで、光や映像演出などとともにまちの魅力を引き出した
- ②メリケンパーク会場では、展示会場として初めて大型テントを使用し、天候による不具合を解消するとともにゆとりある展示を行った

- ③過去に神戸ビエンナーレのコンペティションで入賞した作家を招待し、作品を東遊園地会場およびメリケンパーク会場で展示した
- ④市民参加の取り組みとして、これまでの組織を一新し、神戸ビエンナーレをともに作りあげ、盛りあげていく市民チーム「神戸ビエンナーレ Cheers」を創設した
- ⑤神戸ビエンナーレ Cheers や市民を対象に「神戸ビエンナーレ学校」を開校し、神戸ビエンナーレや芸術文化、神戸への知見を広める連続講座を行った
- ⑥国際ビエンナーレ協会（IBA）への加盟や国際会議への参加、連携するアジア最大の光州ビエンナーレや友好都市である中国・天津市などとの国際的な交流を促進した
- ⑦東京での公開シンポジウムや新長田でのイベントなど、PR と連携活動の幅を広げた

来場者数は、過去 4 回の開催を上回る 383,339 人となった。これは、初めて実施した東遊園地会場での夜間展示や兵庫県立美術館で開催された「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム展」が話題となり、多くの方に来場いただいたこと、しつらいアート展の体験型の作品が注目されるとともにハーバーランド umie や中突堤中央ターミナル（かもめりあ）での作品展示や、JR 高架下の独特な雰囲気の中で開催されたいけばな未来展・野外展などで、ビエンナーレを目的としない方にも気軽にアートに触れていただく機会が増えたことなどが要因であると考えられる。こういった市内各所の魅力を活かした会場づくりは、一方で、来場者からの「会場が分散しすぎており、見て回るのがたいへんだった」といった声にもなった。各会場で開場時間が異なったことや東遊園地会場だけが、他イベントとの関係で 11 月 1 日で終了となったことは分かりにくかったようであり、周知方法も課題だった。

来場者アンケートでは、「次回も是非来たい」「機会があれば来たい」が前回より増加し、97.9%に上がった。アンケートでは、「新しいアートの世界を知る機会となった」「他の美術館にはない作品を見ることができた」といった声が聞かれた。東遊園地に整然と並べられたコンテナの内外に展示された都心の夜を彩るアート作品の数々を、来場者には堪能していただいたのではないかと。メリケンパーク会場では、大型テントとなったことで、大型のペインティングアートなどコンテナでは展示できなかったサイズの作品の展示が可能となったほか、メディア芸術祭作品、書、工芸、障がい者アートなども、鑑賞しやすい展示となった。また、創作玩具やコミックイラスト、招待作家の体験型の作品など、子どもも楽しめる作品を集約したこと、特に、家族連れで小さな子どもから大人まで、長い時間、ゆとりある展示環境の中でアートを楽しんでいただいている様子が印象的だった。その他にも、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館での企画展示や、まちなかコンサートやその他イベントまで、さまざまな会場での来場者の反応はまさに、神戸ビエンナーレが目指してきたアートの多様性、多彩性が新たな「かたち」として受け入れられている結果であろう。

ただ、来場者からは、「作品として『きれいな』『面白い』『楽しい』ものは多かったが、もう少し『考えることを愉しめる』作品があってもよかったのではないかと」「ビエンナーレにより親近感を持たせる取り組みとしてはよかったが、一方で、そういった取り組みは芸術性を半減させてしまうのではないかと」といった意見もあった。

また、「地元の若い作家の作品も見たい。神戸ゆかりのアーティストももっと発信してほしい」といった声も聞かれたが、全会場を通して、各コンペティションとともに、「神戸力発信部門」のさまざまな企画展示など神戸ゆかりのアーティストが数多く参加できる取り組みを行ったところである。

さらに、今回のビエンナーレのもう一つの大きな成果は、神戸ビエンナーレ Cheers である。神戸ビエンナーレ Cheers は、いわゆるボランティア組織ではなく、自ら考え、活動する市民パートナーとして、広報 PR、作品制作補助、来場者へのおもてなしなど、多岐にわたる活動でビエンナーレを支えた。作品ガイドツアーや作品制作補助の際に行った作家インタビューをまとめたカードの配布などは、来場者だけでなく、

作家からも好評だった。今回の活動をきっかけとして、今後の芸術文化事業における市民パートナーとしての関わりが期待される。

このように、今回のビエンナーレでの新しい大きな試み（チャレンジ）は、情報発信の強化や来場者サービスの充実などを求める意見もあったものの、アートのさらなる可能性を示すことにもなった。

神戸ビエンナーレは、「アートを活かしたまちづくり」という基本方針のもと、コンペティションを中心に多くの作家の発表の場として、神戸の芸術文化の力を発信するとともに、国際的な芸術祭としての幅広い交流や、市民に芸術文化を身近なものとするなどの成果を生み出し、さらには、神戸のブランド力やイメージ向上にも寄与してきた。こういった神戸ビエンナーレによって生まれた成果が、今後の神戸の芸術文化の振興に活かされるよう期待する。

VI 企画委員名簿（五十音順）

石原 憲一郎（兵庫県参与、[公財]兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター長）

越智 裕二郎（[公財]西宮市大谷記念美術館 館長）

岸田 泰幸（神戸市 市民参画推進局長）

齊木 崇人（神戸芸術工科大学 学長）

高須賀 昌志（環境芸術学会 会長）

武田 政義（[公財]兵庫県芸術文化協会 副会長）

服部 孝司（株式会社神戸新聞社 特別顧問）

榎山 淳（日本放送協会 神戸放送局長）

山田 弘（神戸芸術文化会議 副議長、兵庫・神戸CSの会 会長）

吉田 泰巳（華道家）

※補職名は、2016年3月31日現在